


フッ化物洗口で1日換算で約0.2mgのフッ化物を摂取



液使用量 7mlとして

フッ化物量 6.3mg

週1回法  
7日に1回

1mg

洗口後口に残る量15%として 使用全量中に

フッ化物使用量は急性中毒量の4分の1以下

1日換算で0.2mg以下のフッ化物

週1回法  
7日に1回

1mg

液使用量 7mlとして

フッ化物量 6.3mg

急性中毒量 フッ化物量で 30mg

洗口後口に残る量 使用量 15kg児の急性中毒量

フッ化物と慢性中毒との関係について

歯のフッ素症(斑状歯)

骨のフッ素症(骨硬化症)

◇過量だと最初に出るのが 歯のフッ素症

◇はるかに過量で発現するのが骨のフッ素症

フッ化物研究は「歯のフッ素症(斑状歯)」をいかに予防するかという害の予防の疫学調査から始まった

- フッ化物の過量の摂取による慢性中毒にはまず最初に「歯のフッ素症」が上げられます。
- フッ素の研究は、米国のカリフォルニア州に発現していた「歯のフッ素症(斑状歯)」をいかに予防するかという「害の予防の疫学調査研究」から始まったことに大きな意味があります。
- これにより、むし歯を予防し、審美的に問題になる段階の「歯のフッ素症(斑状歯)が発生しない」飲料水のフッ素濃度 約1ppm が明確になった。

骨フッ素症について

8ppm以上の高いフッ素濃度の水(深い井戸の水)を10年以上飲用していた時に約10%の人に出現する。

フッ素濃度5ppm以下の水の地域では見られない。現在、水道水の普及した日本では見られない。

洗口のフッ化物摂取量はフロリデーションの1/4~1/5

フッ化物洗口後口に残る1日換算で0.2mg以下のフッ化物はフロリデーションの濃度に換算すると0.1~0.2ppm

飲料水のフッ化物濃度 8ppm以上で骨硬化症

フッ化物濃度 約2ppm

1ppm

フッ化物洗口 フロリデーション 0.7~1.2ppm

中等度以上の歯のフッ素症が発生し始める

10年間飲用で10%に骨硬化症